

**\*被災地の皆様心よりお見舞い申し上げます。**

**福島原発の事態が一刻でも早くがおさまるよう願っています\***

**[テキスト使用の際の注意]**

以下の内容は、テキストですぐに内容がわかるようにするために書いたものです。もしテキストを引用される場合は音源との確認を念のためお願いすると同時に、内容の変更はしないでください。また、出典の明記をお願いします。

最後に、この内容は、2011年3月15日14:35放送(アーカイブ視聴可)時点の内容です。

原発事故関連の情報は必ず最新の情報を入手し、冷静に判断をお願いいたします。

**FM797 京都三条ラジオカフェ**

**(運営:特定非営利活動法人 京都コミュニティ放送)**

**2011年3月15日14:35放送(アーカイブ視聴可)**

<http://www.ustream.tv/recorded/13340817>

福島原発事故による影響を原発問題専門家にきく。

**【出演】**

ゲスト:

小出裕章先生 (京都大学原子炉実験所 助教)、

細川弘明先生 (京都精華大学人文学部総合人文学科 環境未来コース 教授)

安齋育郎先生 (立命館大学特命教授・名誉教授、放射線防護学が専門)

聞き手:

山田章博氏 (まちづくり支援研究所 市民空間きょうと代表)

下村委津子氏 (環境市民理事、ECO パーソナリティ&環境カウンセラー)

○茨城県内では通常の100倍、神奈川県では10倍近い放射能を検出。

東京でも放射性ヨウ素や硼素を検出と共同通信が報じた。

近い地域から順に、関西方面まで影響が出るでしょう。

**【小出先生インタビュー (電話)】**

○事態をどのように理解しているか

小出) 破局的な事態に向かって一步一步進んでいる。東京電力は必死でやってきてここまですぐに食い止められずに来ているので、努力が実を結ぶかどうかは半分期待できない。

○今後どうなるのか

小出) 放射線の被曝の影響の現れ方は二つある。一つは急性障害で、これは原爆型の被害。もう一つ、目に見えない被害は出なくても何年か後に現れるのは晩発性の被害。

急性障害は、原発から数十キロに現れるだろう。ただし、風雨の影響により、200~300キロ先に影響が出ることもありうる。

晩発性の障害の範囲は地球全部。チェルノブイリは 700 キロ離れた地域でも汚染が起こった。関西方向に風が来ると、西日本も飲み込まれる範囲。

○近い地域の方は外に出てはだめなのか

小出) 風下なら屋内退避をする。しかし、風下に入っていないなら外に出て逃げた方がよい。できるだけ遠くに移動すること。

○できることは

小出) 福島第一原発には 1 から 6 号炉がある。危機に陥っているのは 4 号機まで。ここは使用済み燃料をプールに入れて冷却していたのが、冷やせなくなったので、使用済み燃料が破損を始めた。ここは防壁がないまま放射能が外に出ている。放射能の流出をとどめる手段がない。大変な事態として憂慮している。火災が起こっているのですでにその事態は起こっていると考えられる。400 ミリシーベルトの検出はその原因と推測している。

○これからどうなるのか

小出) 地震後すでに 4 日たち、必死で押しえ込もうとしているのにますます事態は悪化している。希望が失われている。続くことを心配している。終息できたらありがたいが、できないことも考えて行動していくべき。

○マスコミは楽観的すぎないか

小出) 取材陣の反応は少しは変わってきたようにも思えるが、自分にインタビューしても放映はごく一部のみ。テレビ局の都合のいい部分しか伝えないのでは。

的確に状況を把握するには、信頼できる NPO 等からの情報も常に得るべき。

○原子炉の現在の状況は

小出) 福島第一の 5, 6 号機は定検で止まっている。福島第二の方にあと 4 基があり、冷温停止がうまくいったと報道されている。そちらは急激に悪くなる可能性はおそくないと思われる。今はとにかく第一の 1-4 号機をなんとかしないとイケない状態。

小出先生インタビュー終わり。

○楽観的に考えることはもう捨て去った方がいい。もしもを想定して、余裕のあるうちに行

動した方がいい。

天気が気になるころ。低気圧、前線が通過、18時以降は福島は翌16日の6時まで雨の予報。風は首都圏に向けて吹いている。その後は東北方面（福島市、郡山市、会津若松）へ。夜に止んで、今度は真北から南へ吹く（関東方面）予報。真南だと海に出る量が多くなる。風速は5メートル（時速20キロ）以下。首都圏まで到着は3-4時間と見られる。翌朝9時から風向きは西、海に向かって5メートルの速さ。

近い地域、風下の地域は、雨が降ったら外に出ないように。換気もしないように。放射能は微粒子でできているので、服を外で脱ぐ、濡れたマスクで口を覆う、など、報道されている対策をとるように。

関西にも空気は流れてくる。世界中で問題になる。高濃度の放射能は上空でできている。雲が関西に流れてきたときどうするのか、考えなければならない。

#### 【細川先生インタビュー（電話）】

○悪化する状況の中で、関西に住む私たちはどうすればいいのか。

細川) 急性症状をまずしのぐこと。それは関西に関しては心配はない。ただし、あとになってどんな影響があるか。直接の汚染は関東でも、食べ物など間接的に来るものは覚悟すること。

行政は距離がある地域までは対応できないと思うので、個々人の判断で動かざるを得ない。自己責任になるだろう。個人的な考えとしては、茨城や福島、妊娠した人や小さな子どもがいる場合は、関西に親戚がいるなら、疎開・避難を考えた方がいい。関西の我々は可能な限りサポートをしよう。長い期間で考える必要がある。関西の食べ物は東北にも依存している。無用な混乱を避けつつ、冷静に乗り切るしかない。

○東北で安全な食べ物が取れなくなる事態が考えられる？

細川) 事故がさらに悪くなる場合、最悪のシナリオは、昼過ぎの発表では発電所内部の数値が高い。限度を超え、作業員の作業が難しくなる。1号炉から3号炉はこれまで対応していた作業ができなくなるおそれがある。冷却が成功していないので、次々とメルトダウンしている可能性がある。施設に残っている50人が作業を続けられるかは微妙なところ。

四つの炉から相当多い放射能が環境中に出ることは覚悟する方がよい。何十年にわたってそういう場所で生きることを私たちは覚悟すること。

○チェルノブイリ事故から20年経っているがまだ汚染が続いている

細川) 今回の事態はそれより悪くなる可能性が高い。放射能の量が3~4機分の上に、人口が多い。海に流れてくれれば、陸地に落ちるよりは飛散してくれるので、できるなら西風が吹いてほしい。

ここ 1-2 週間は、いま出ている放射能雲にどう対処するかが最優先。

放射性ヨウ素の半減期は 8 日。1000 分の 1 に落ちるのに 80 日、つまり 3 カ月弱。小さい子は注意。その後は、環境汚染から時間をかけて影響が出ることは覚悟すること。

チェルノブイリの人たちが体験してきたことを今度は私たちが体験するのを覚悟すること。チェルノブイリの教訓を生かして共有して、希望を考えていきたい。

強い放射能が関西まで来る可能性は高くないだろう。東京までは微妙なところ。もっと近いところは汚染。

○放射能は東京でも検出されている

細川) 昨日、番組で東海村の話をした後にチェックしたところ、東海の第二は冷温停止まで行っていないが、落ちついた。しかしすでに放射能が出たことが考えられる。茨城での高い数値の検出は、東海からか？ 福島第二は、1,2,3 は冷温停止。4 号炉はまだ。

○避難した方がいいのか？

細川) 日本は人口が多いので、あわてて動くとかえって悪くなる。冷静にいろんな方と相談してサポートしてもらえる対応を作りながら。

○被災地域の農作物はどうすればいい？

細川) 収穫は早く。関西では少しは流れてくることはありえないことではないので、早めで収穫できるものがあれば、ここ 4 日ぐらいは余裕があると思うので、鉢植えを室内に入れるなどした方がいい。ただし、高いレベルの被曝は関西では考えにくい。じわじわ出る影響をしのぐのが大切。

細川先生インタビュー終わり。

○危険を回避したい。環境市民では行動提起をしている。降雨にはあたらぬこと。東北の農家は早く収穫する。風下地域の若い人はヨードを含む食品を毎日取ること。ノリ、わかめ、とろろ昆布など。買い占めには走らないこと。冷静な判断を。中途半端な情報や口コミには気をつけること。

[http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?content\\_id=69](http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?content_id=69)

○首相と官房長官の会見では、20 キロ圏の強制避難、20 キロ～30 キロまでは室内で退避を求めた。政府として必要なステートメント（指令）を出しただけ。一人ひとりそれぞれの判断をしてほしい。そのために客観的かつリアルタイムに近い情報が必要。今朝早くの 4 号炉の問題の発表が 11 時頃という状態。事態がここまで進んでいることを考え、先手先手を取って動いた方がいい。ただし、他の人には強制しない。冷静に、理性的に。関西では

半ば安全な状態にいるが、明日明後日どうなるか、考えて動く。

○予防的な感覚を持って動く方がいい。それが冷静な判断につながる。どうしようもなくなってから動くよりもよい。環境市民では情報を整理しながら逐次情報を発信していきたい。

#### 【安西先生インタビュー（電話）】

○今の状況は？

安西) 震災被災者には不幸な追い打ちになった。朝は40万シーベルト/時。マイクロからミリに単位が上がった。今、自分のそばにあるガイガーカウンターは0.2マイクロシーベルト、これが自然界のレベル。その200万倍のレベルの放射能が出ている。30キロ退避と言われているが、雲となってたなびいてくる。関東圏に向かって来ている。雲の動きを見定めて、動く。その気象計算プログラムはとっくにできている。それを活かして、地域に均一ではなく、防護措置をとる必要がある。同心円では、避難させる面積の人間の数が多くなりすぎる。

危機に当たって政府なりの危機管理に必要なことは、「隠すな、うそつくな、過小評価すな」が3原則。最悪を想定して最善をつくすのが原則。

○後追いで情報を小出しにしているから信頼されなくなり、パニックの元になるのでは。

安西) 指揮命令監督する人の言うことに従うかどうかは、その人を信頼しているかどうかにかかると。信頼できなければ危機管理はおしまいになる。

私は70年代から原発に関わってきたが、うそや隠しが歴然とあった。

○放射能雲にどう対応するべきか

安西) 市民ができることは多くない。不要不急の外出はしない。密閉性を保つ。出る場合は帽子をかぶり、ビニールのような払い落とせるものを着る。シャワーを浴びる。石けんを使って洗い流す。それぐらいしかやれることはない。災害の全体像を見据えて政府が具体的に計画を出してくれないと困る。

福島原発1号炉は40歳。3号炉は35歳。2号炉は37歳。通常、原発は16歳が限界、使えば安くなるので使い続けてきたが、老朽化でもろくなっていると考えられる。2号炉の進展がどうなるか注目。

声を上げていった方がいい。関西は電力の4割を原発に頼っていていいのか。

安西先生インタビュー終わり。

○私たちはどうすればいいのか。外出しないわけにはいかないし、待ってはられない。

判断のため、的確に情報がほしい。自分たちには何ができるのか？ 自分のため、被災地のため、何ができるか、今のうちに考えていくこと。どのエネルギーを選択してこれから私たちは生きていくのか。世界中で考えること。短期的に、かつ長期的に。体力は保つだろうか。

いま環境市民が情報を得ようとしているソース。村上さんら、海外のジャーナリスト。外国人プレスの中身。明日あさって近いうちに。フォトジャーナリスト森住さんが現地に入っているので、可能な限り番組の中で逐次情報を流していく。適切な時期にこれまでの推移を含めて話を聞いていきたい。

15日の朝から急展開している問題、放射性物質の漏洩について、お伝えした。

この後 19:07 から東北関東大震災特別番組を生放送予定。

(了) 文責：南村多津恵（電子かわら版チーム）